彩の国
埼玉県

# WIN PROJECT WIN

令和２年度
学校地域WIN-WINプロジェクト実践報告書

埼玉県マスコット
「コバトン」・「さいたまっち」

令和３年３月
埼玉県教育委員会

# は　じ　め　に

社会の変化を正確に予測することが困難なこれからの時代において、主体的に社会に関わり、多様な人々との交流を通して、新たな価値を創造し、人生や社会の未来を切り拓くことのできる力が求められます。

そこで、埼玉県教育委員会では、学校と地域との連携・協働による体験と実践を伴った学びの機会を設けるため、平成３０年度から学校と地域が共にＷＩＮ－ＷＩＮな関係となる取組を推進するため、「学校地域ＷＩＮ－ＷＩＮプロジェクト」を実施しています。

この事業は、地域にある多様な人的・物的資源（企業・ＮＰＯ・市町村・地域人材など）を活用することにより、個々の教科などでの学びを深め広げるだけではなく、主体的に考え行動するとともに他者と連携・協働することなどを学び、地域が人を育て、人が地域を作る好循環を生み出すものです。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため授業時間が限られ学び方が変わる中、実践研究校に指定した５校（小鹿野高校・春日部女子高校・坂戸高校・不動岡高校・本庄特別支援学校）は、地域との新たな連携・協働の方法を模索しながら、年間を通して取り組んできました。また、教育局では、学校と企業等のマッチング・コーディネートを行い教育活動の充実に努めてきました。更に、組織や立場を超えての参加者全員の意見交換や学校と地域との新たなマッチングを行うためフォーラムを開催するなど、合わせて３つの取組を行いました。これらの取組により、生徒は、地域の良さや特徴、課題を知るとともに、多様な人々との関わりを通して、主体性や思考力を高め自己肯定感を得ることができました。一方、教職員や地域の方々にとっては、次代を支える子供たちが、高校でどのような力を身に付けるのか、大人たちがそれぞれの立場で何ができるのかなどについて、考える機会となりました。

本報告書では、実践研究校の優れた取組事例を紹介しております。今後、多くの学校で継続的に実社会からの学びを充実できますよう、本報告書を御活用くださいますようお願いします。

結びに、「学校地域ＷＩＮ－ＷＩＮプロジェクト」の取組に御支援・御協力いただきました皆様、並びに本報告書の作成に当たり、実践事例の掲載に御協力いただきました皆様に、心からお礼を申し上げます。

令和３年３月

埼玉県教育委員会教育長　髙田　直芳

# 目　次

## 1　学校地域WIN-WINプロジェクト

学校地域ＷＩＮ－ＷＩＮプロジェクト　・・・・・　１

## 2　学校地域WIN-WINプロジェクト実践研究校の取組

●実践研究校の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
埼玉県立小鹿野高等学校　・・・・・・・・・・・・・　７
埼玉県立春日部女子高等学校　・・・・・・・・・・・１１
埼玉県立坂戸高等学校　・・・・・・・・・・・・・・１５
埼玉県立不動岡高等学校　・・・・・・・・・・・・・１９
埼玉県立本庄特別支援学校　・・・・・・・・・・・２３

## 3　フォーラムについて

フォーラムの日程　・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
フォーラムの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

## 4　教育プログラム

教育プログラム一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・３２
教育プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
令和２年度マッチング実績　・・・・・・・・・・・・・４５

# 学校地域WIN-WINプロジェクト

WIN PROJECT WIN

## 概　要

- 学校以外の人的・物的資源（企業、NPO、市町村、地域人材など）を活用した実社会からの学びを充実する（学校のWIN）
- 学校の力を地域で生かす取組を推進する（地域のWIN）

## 目　的

- 子供たちがより良い社会と幸福な人生の創り手となる力を育む
- 「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」、「総合的な探究の時間」など、新学習指導要領への対応に備える

## 取 組 1　教育局に窓口を設置し学校と地域をつなぐ

- 年間を通して地域の力を教育活動に活用する取組や学校の力を地域に生かす取組の提案を学校から募集
- 学校や地域のニーズに応じて、教育局職員が学校と地域の両者のマッチング・コーディネートを実施

## 取 組 2　先行事例を打ち出し事業を牽引する

- 令和2年度は、県立学校5校（小鹿野高校、春日部女子高校、坂戸高校、不動岡高校、本庄特別支援学校）を実践研究校として指定
- 学校、地域、県が連携しながら、学校・地域両方がWIN－WINとなるモデルを打ち出す

## 取 組 3　学校地域WIN－WINプロジェクトフォーラムを開催する

- 参加者全員が組織や立場を超えて意見交換を行うとともに、学校と地域との新たなマッチングを進める